心の旅　四国１周３０日間

梶原　尅彦

はじめに

いつの日からか、漠然と四国８８カ所を巡る「お遍路さん」になってみたい、なにも考えずにただ歩き続ける旅に出てみたい、と考えるようになっていた。実際に会社をリタイアして毎日が日曜になってみると、ますます実行したくなってくる。実行するには、必須条件として、①家族の理解　②40 日前後（約 1200 ㎞）荷物を担いで歩き続けることが出来る体力と気力　③必要経費（遍路の手段中で最も費用が掛かる）が挙げられる。

私の場合は、考える前に行動に移さないと、考えすぎて前に進めないケースが多いため、とにかく出発することにした。情報はインターネットで検索すれば、かなり詳しいものが手に入ることは解っていたが、あえて情報は現地で収集することにして、とにかく荷物をまとめて出発した。

荷物：着替え等の入った５kg弱のリュック＋貴重品・納経用具の入った約２kgのウエストバック＋水＋おにぎり等＝７～１０kg（毎日担いで歩く量）

2006 年 5 月 9 日　曇りのち雨　（四国入り）

朝 9 時過ぎに家を出発、難波 11 時発の高速バスにて徳島駅前まで約 4 時間弱。バスは快適であったが、同乗したおばさんのグループがにぎやかであった。徳島は雨、ＪＲで板東駅まで約 35 分、駅近くの旅館かどや椿荘に宿泊。一旦荷物を預け町はずれにある霊山寺前にて遍路用品〔菅笠・白衣・納経帳（2 冊）・経本・輪袈裟・納め札〕を調達。納経帳は意外に大きくて重く、歩き遍路の身にはこたえるかも・・・

真新しい菅笠と白衣で１番**霊山寺**のみ参拝（打つ）させて戴く事にする。ある程度予備知識を持って来たつもりであるが、声を上げてお経を読むのが気恥ずかしくて声が出ない。周りの団体さんの声に合わせて何とか読経。なお、今回金剛杖は間違いなくどこかに置き忘れるであろうと予測出来るため、省略させて戴いた。また、灯明と線香についても省略させて戴くことにした。

宿は清潔で、洗濯機・乾燥機共完備（有料）されていて、四国第１日目の夜を快適に過ごす事が出来た。

費用：24800 円（内宿 7600 円）

2006 年 5 月 10 日　曇り時々雨（１日目）

朝 7 時出発、梅雨という季節のせいかお遍路さんの姿はあまり見かけない。今日の宿まではあらかじめ予約済み、予定では５番札所まで、地図の上では約 15 ㎞程度とわずかな距離である。但し、一つの寺を打つのに 30 分程度は必要、しかも団体さんの後になると納経のための時間が相当かかるとの情報もあり、落ち着いて回る事とする。２番**極楽寺**・３番**金泉寺**・４番**大日寺**・５番**地蔵寺**と進むがまだお昼にもなって居らず、５番地蔵寺奥の院の五百羅漢にも立ち寄る。五百羅漢は薄暗い建物のなかに極彩色の羅漢がまつられており、想像していたものとは若干違う感じがした。６番**安楽寺**に向かう途中、予約してある宿「民宿寿食堂」の前を通るが、時間も早く宿をキャンセルするのも気が引けたため、７番**十楽寺**まで足を伸ばし宿まで引き返す事にした。７番札所十楽寺山門はまるで竜宮城の様であり、少しとまどいを感じた。

寿食堂は、古いタイプの民宿そのものであるが、女将さんも親切な方で気持ちよく泊まらせて戴いた。洗濯は無料、乾燥機のみ 100 円必要。１日の歩行距離に関してはもう少し歩けそうな感じがする。但し、適当な距離のところに宿が確保出来ればの話である。

費用：11505 円（内宿 7455 円）　累計 36385 円　・　歩行距離：19.6 ㎞

2006 年 5 月 11 日　雨（２日目）

朝 7 時出発、昨日６番・７番は打ち終わっている。のどかな遍路道の先に８番**熊谷寺**の二層の山門が現れる。山門から本堂までは結構距離があるように思えた、９番**法輪寺**を打つ頃には雨も小降りとなり、気持ちよく歩くことが出来た。１０番**切幡寺**は約 800 ㍍の急な上り坂の参道、さらに 333 段の石段とかなりきつい。１０番を打ち終わって、参道下の食堂で昼食にうどん？（だんご汁に近かった）を食べる。

１１番**藤井寺**へは四国第１の川、吉野川を渡る。ここ数日の雨による増水で楽しみにしていた沈下橋は通行止めとのこと、でも沈下橋の様子も見たいため、とにかくそばまで行ってみることにする。橋の上面から 30 ㎝程度のところまで増水しており、普通の橋であれば流されているだろうなあと思える程であった。

次の１２番への道は遍路ころがしといわれるほどの険しい道と聞かされているため、今日の宿は、藤井寺門前の「ふじや旅館」に昨夜予約をいれておいた。今日も時間が余り、１３時３０分には宿に着いてしまった。でも快く宿に入れて戴き、濡れた衣服の洗濯や明日の準備などゆっくりさせて戴くことが出来た。

費用：10088 円（内宿 7600 円）　累計 46473 円　・　歩行距離：22.7 ㎞　累計 42.3 ㎞

2006 年 5 月 12 日　晴れ（３日目）

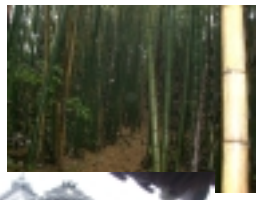
朝 6 時 30 分出発、昔から遍路ころがしと呼ばれる険しい山の寺が６カ所あり、その最初の寺が１２番**焼山寺**と聞かされている。確かに約 12 ㎞の間、延々と続く丸太の階段、階段が終ったと思ったら急な坂道の連続、途中柳水庵・一本杉庵を経てやっとの事で焼山寺にたどり着く。この間約３時間 30 分、必死で登った思いだけが残る。昨夜立てた計画ではこの 12 ㎞を 5 時間かけて、次の札所との中間にある植村旅館に泊めて戴く予定であったが、今日もまた昼過ぎには到着しそうなので、計画を練り直し、１３番大日寺まで足を伸ばす事とする。植村旅館には快くキャンセルに応じて戴く事が出来、大日寺そばの「名四旅館」に予約を入れる。

焼山寺後は変化に富んだ美しい渓谷の鮎喰川沿いに下り、１３番**大日寺**に到着。

宿は昔の民宿そのもので、部屋はフスマ１枚で仕切られただけ、全体に不潔な感じがした。でも、不平は言うまいこの宿を選んだのは自分だし、泊めて戴けるだけでも感謝すべき・・・

費用：8590 円（内宿 6900 円）　累計 55063 円　・　歩行距離：34.4 ㎞　累計 76.7 ㎞

2006 年 5 月 13 日　雨（４日目）

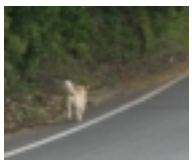


朝 7 時出発、昨日の疲れが若干残っている感じである。宿が確保出来ない事もあるが、今日はあまり無理をせず１９番立江寺の宿坊までの予定とする。このあたりは寺と寺の間隔が近く１４番**常楽寺**・１５番**国分寺**・１６番**観音寺**・１７番**井戸寺**を順調に打ち進む。１８番**恩山寺**までは若干の距離があるが、雨の中徳島市内をとぼとぼ歩くのはあまり面白くなかった。ここで里心が出て脱落する歩き遍路が多いと聞く。１９番**立江寺**へは竹林の中を進む遍路道もあり、結構楽しめた。また、パンを買ったお店のおばあちゃんからお接待でジュースを戴いた。

宿坊は清潔で気持ちのよい所であり、１日中雨の中を歩いて萎えかけていた気持ちを奮い立たせて戴いた様な気がする。また、朝のお勤め（佛前勤行）にも参加させて戴き何かしら落ち着いた気持ちにさせて戴いた。

費用：11200 円（内宿 6000 円）　累計 66263 円　・　歩行距離：29.7 ㎞　累計 106.4 ㎞

2006 年 5 月 14 日　雨時々晴れ（５日目）



朝 7 時 30 分出発、寺の山門を出たところで対向車線を走ってきた車に乗ったおばさんから、すれ違いざまお接待をさせて下さいと言って、ポチ袋(200 円入)を渡された。ただ声もなく頭を下げるのが精一杯であった。しばらく歩道のない県道をよたよたと歩くことになったが、途中１匹の犬があたかも道案内をするがごとく、振り返り、振り返りながら私の前をトコトコと歩いてゆく、遍路案内犬？

２０番**鶴林寺**参道の登りは標高差 500m を４㎞でのぼる遍路転がしである。坂道、丸太の階段が延々と続く感じがした。次の２１番**太龍寺**へは一旦山を下り、那賀川を渡り鶴林寺参道よりきついと思える山道を再び登る。小さな谷川に沿って登る道は水も緑も美しく、疲れを忘れさせてくれる。太龍寺では樹齢数百年の巨杉と大檜に圧倒され、「龍」の天井絵（龍天井）も見ることが出来た。なお、このあたりに来てやっと般若心経も声を出して読経することが出来るようになってきた。２１番を打ち終わり本当は２２番平等寺前の民宿に泊まりたかったが、あいにく休業とのことで２１番と２２番の中間あたりの民宿坂口屋に入る。今日は山道では晴れ間が多く、ラッキーであった。

宿はごく普通の民宿、可もなし不可もなし。

費用：8450 円（内宿 7165 円）　累計 74713 円　・　歩行距離：24.2 ㎞　累計 130.6 ㎞

2006年5月15日　晴れ（６日目）

朝７時出発、舗装された県道２８号から遍路道に入り、大根峠を越えると２２番**平等寺**も近い。天気が良くなるとたちまち暑さが襲ってくる。少しの坂道、階段だけで汗が噴き出してくる。でも雨の中カッパを着て蒸し暑くて流す汗よりもよほど気分は良い。それに連日汗をかき続けていると、汗が軽くなるというかサラッとした感じに変わって来たように思える。途中静かな福井ダムを見ながら鉦打トンネルを抜け国道５５号を坦々と２３番**薬王寺**へと進む。今日は薬王寺の宿坊薬師会館泊まり、例によって１４時過ぎには宿に着いた。周囲は国道沿いでもあり田舎町の風情がある。今日で徳島県のお寺は終わりである。明日から高知県、徳島は阿波の国「発心の道場」・高知は土佐の国「修行の道場」と言われている。さてどんな修行が待っているやら・・・

宿は、宿坊というよりホテルに近い感じで、非常に清潔でリラックス出来るよう配慮されていた。ここでも朝の佛前勤行に参加させて戴いた。

費用：10704円（内宿6850円）　累計85417円　・　歩行距離：28.2㎞　累計158.8㎞

2006年5月16日　雨（７日目）

朝７時出発、今日は打つべき寺はなし、一番近い２４番最御崎寺まで83㎞以上の距離がある。今までの自分のペースから考えて、国道55号を歩くことも考慮し、２日で可能と考えた。まずはＪＲ牟岐線と絡みながら太平洋の見える海岸を目指す。途中海南町付近で、喫茶店からおばさんが転がり出てきて「お遍路さーん」と呼び止められる。コーヒーが沸いたばかりだから、お接待させて下さいとのこと、本当に四国の方々のお遍路に対する心遣いに頭が下がる。おいしいお菓子とコーヒーをごちそうになり、元気をいっぱい戴いて今日の宿泊予定穴喰町を目指す。海岸線に近づくにつれ雨脚が強くなってくる。せっかくの太平洋も雨でかすんで薄暗い。おまけに国道を走る大型トラックから泥水シャワーの洗礼を幾度となく受ける。雨具は重量を考えてビニールのポンチョとズボンを用意していたが､結局外は雨､内は汗でずぶ濡れになった。ただしポンチョは正解で荷物は濡らすことなく無事であった。これも修行の一つと考えどんどん進む。今夜の宿「民宿ぬしま」についたのは１６時。

宿のご主人は気さくな人で、部屋も食事も申し分なし。いやな雨中歩行も忘れて眠る事が出来た。

費用：7780円（内宿7000円）　累計93197円　・　歩行距離：42.8㎞　累計201.6㎞

2006年5月17日　大雨（８日目）

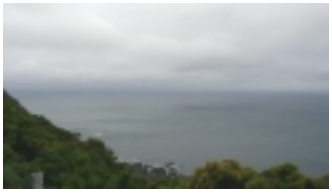
朝６時30分出発、今日は室戸岬の先端にある２４番最御崎寺まで昨日とほぼ同じ距離を、昨日よりひどくなった雨の中を、やはり国道５５号線をトラックの泥水シャワーを浴びながら快適に？進む事になる。

太平洋だからなのか波は非常に高く、波頭が真っ白（あたりまえ？）でその下が美しい緑（ｴﾒﾗﾙﾄﾞｸﾞﾘｰﾝ）に輝いているように見えた。途中夫婦岩と名付けられた景勝地も通るが、雨脚に負けてゆっくりと鑑賞する心の余裕もない。ただ黙々と室戸岬を目指す。２４**番最御崎寺**は１６時過ぎに打つことが出来た。雨のため写真は明日にして早目に宿坊「最御崎寺へんろセンター」に入り、靴の乾燥、衣類の洗濯、バックの中身が濡れていないか確認、入浴、明日の予定作成、宿予約などを早々に済ませ、食事を戴く。

この宿坊はもちろん、これまで泊めて戴いた宿坊は、全て清潔で食事も良くこんな値段で本当にいいの？と聞きたくなるような良い宿ばかりであり、本当に自分はついているんだと思う。

費用：7030円（内宿5700円）　累計100227円　・　歩行距離：41.7㎞　累計243.3㎞

2006年5月18日　雨時々曇り（９日目）



早朝に最御崎寺で記念撮影、朝６時30分出発、室戸岬からの眺望はまさに水平線が丸く見えるすばらしいものであった。但し、厚い雲のため空と海の境目が、はっきりしない部分があったのが残念であった。室戸スカイラインの急坂を駆け下ると､また単調な国道を歩くことになる｡この国道５５号はいつも雨が降っているの？と思うほど。そんな中、２５番**津照寺**・２６番**金剛頂寺**を打ち、２７番**神峰寺**へ向かう。神峰寺へは海抜０ｍから430mの山頂まで一気に登る約３㎞の参道は「真ッ縦」の異名がつくほどの難所と言われている。

今日の宿はこの神峰寺へ登った3㎞を打ち戻った海沿いの民宿浜吉屋である。登りに若干時間を使いすぎたこともあり、小走りで下り、１６時３０分宿に到着した。
宿は、古い民宿といった感じであるが、優しいおばあちゃんが良く面倒を見てくれた。少し薄汚れた感じのする部屋であったが、故郷の田舎に帰って来たような安堵感を感じる事が出来た。

費用：8730 円（内宿 8000 円）　累計 108957 円　・　歩行距離：45.3 ㎞　累計 288.6 ㎞

2006 年 5 月 19 日　雨時々曇り（１０日目）

朝７時出発、今日も海沿いの国道５５号を坦々と歩くのみ、昨日少し頑張りすぎたこともあり、距離を短く設定、２８番大日寺の手前に宿を予約する。途中国道から離れてサイクリングロードへ、泥水シャワーもなく快適に進むことが出来た。手結岬では長さ３２ｍもの巨大な跳ね橋が稼働している所を通りかかった。雨が４日も続くと靴は常に濡れており、足がふやけたようになって、さすがに少し足の裏がおかしくなってきた。またカッパのズボンもどこかで引っかけたらしく、大きく破れ役に立たなくなっている。１５時前早々に宿に入りゆっくりさせて戴くことにする。
宿は建物も新しく、こざっぱりしている上風呂も大きく、食事も充分以上で最高のもてなしをして戴いた。ここで教えられたのは、「ありがとう」の言葉と「笑顔」は人を幸せにするということ。十分に休む事が出来、明日は晴れることを祈って早めに寝床に入る。今日に限った事ではないが、この旅に入ってからお天道様と一緒に寝起きしている自分に気がついた。

費用：9846 円（内宿 7950 円）　累計 118803 円　・　歩行距離：30.0 ㎞　累計 318.6 ㎞

2006 年 5 月２０日　晴れ（１１日目）

朝７時出発、久々の晴天に恵まれた。今日は高知市内まで行くつもりである。足の裏も特に問題は無い様である。２８番**大日寺**をすぎると田園地帯が多くなる。既に田植えが終わっている。さすがに南国である。こんなのんびりとした道中で九州から来られたおじさんとしばらく話しながら進む。そのせいでもないが少し道に迷ったようだ。２９番**国分寺**・３０番**善楽寺**と順調にしかも久しぶりに複数の札所を回ることが出来た。時間にも余裕があると思われるためゆっくりと食堂でビールを飲みながら昼食をとる。今日の最後となる３１番**竹林寺**には１５時に到着。今日の宿はビジネスホテルのためチェックインは１６時以降とのこと、宿まで１㎞足らず、竹林寺でゆっくり休ませて戴き、さらに今夜と明朝の食事を確保した上で「エクセルホテル高知」に入る。なお、どの札所でも「歩き遍路ですが」と前置きし、次の札所への道順を尋ねると、親切に教えて戴くことが出来、場合によっては地図まで頂くことが出来た。
宿については、全く周りに気を遣わなくても良い上、精算を済ませておけば早朝出発も可能なビジネスホテルも、たまにはいいものだ。

費用：10850 円（内宿 5150 円）　累計 129653 円　・　歩行距離：37.4 ㎞　累計 356.0 ㎞

2006 年 5 月２１日　晴れ（１２日目）

朝６時出発、高知市内も早朝は静かであり、気持ちよく歩ける。県道を通り３２番**禅師峰寺**へ向かう。このあたりはアップダウンも少なく、歩きやすい。３３番**雪蹊寺**手前には月の名所と歌われた桂浜がある。３４番**種間寺**の寺名は弘法大師が中国から持ち帰った五穀の種子をまかれたことが由来とか、静かなお寺である。３５番**清滝寺**への道は、途中有名な四万十川にも劣らない清流の仁淀川沿いの道を歩く。天気は快晴、川面を渡る心地よい風を体いっぱいに受けて、元気百倍である。ただし暑い！、清滝寺ではあいにくバスで回っておられる団体さんと一緒になり、納経に手間取る。山登りがなかったせいか、距離の割に早く宿に着きそうだ。今日もビジネスホテルである。「ビジネスイン土佐」に着いたのは１５時過ぎであった。ホテルにはレストランもないため、夕食と朝食を仕入れてから、ホテルでゆっくりさせて戴く事にする。例によって精算を済ませておき、明日は早立ちとする。今日までの調子なら１日の歩行距離は、大きな山越え等がなければ 40 ㎞程度は行けそうだ。
ホテルの部屋は、狭いが清潔で居心地は悪くなかった。

費用：10480 円（内宿 6000 円）　累計 140133 円　・　歩行距離：42.2 ㎞　累計 398.2 ㎞

2006年5月２２日　晴れ（１３日目）

朝5時３０分出発、３６番**青龍寺**までは１０㎞以上の距離がある。まだ朝靄が残る中気分良く歩くことが出来た。途中お接待ですといって若いお母さんからトマトを戴いたりしながら、青龍寺には2時間ほどで到着、お参りを済ませ出発する頃にはそろそろ暑くなって来た。３７番岩本寺への道は、横浪半島を通るルートを選ぶ、この道は景色がすばらしく、県道ではあるが車の量も少なく正解であった。私は海が好きなので、海岸沿いのルートを歩くときは、いつもご機嫌である。しかも今日は2回目となるお接待を、見るからに優しそうなおばあちゃんからよく冷えたオロナミンＣを戴いた。道中を楽しみながら３６番と３７番の中間のJR土讃線安和駅近くの「民宿あわ」には１６時に到着した。

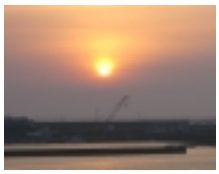
宿は古いがこぎれいで、なによりも女将さんが気さくな人で、居心地が良い。

費用：8320円（内宿6500円）　累計148453円　・　歩行距離：43.2㎞　累計441.4㎞

2006年5月２３日　大雨（１４日目）

朝7時出発、今日打つ予定は３７番**岩本寺**のみ、ただし朝からかなり本降りの雨である。国道５６号を坦々と歩く、岩本寺まで約２６㎞、標高４００m程度の峠越えを含む途中の遍路道は、大雨の場合通行不能になる場合もあり、その場合はかなりの距離を引き返す必要がある、とのことなので、大事をとって国道を進んだ。お昼過ぎには岩本寺を打ち終えゆっくり昼食を採った。次の札所までは約８７㎞の道のり、ゆっくり行きましょう。

山の中の国道５６号をトボトボと進む。雨が若干小降りになってきたので、レインパンツを脱ぎポンチョだけで歩いてみる。ポンチョは蒸れることが少なく快適である。今後はポンチョだけで充分だな等と自分に言い聞かせながら、市野瀬付近で遍路道に入るが途中の案内板を見落とし30分ほど林道のような所をうろうろする。若干焦ったが気を取り直し同じ道をもどり、今日の宿「内田屋」に向かう。



宿は大好きな海沿いにあり全体に新しく、若いご主人も気さくな方で料理もおいしく、気持ち良く泊めて戴いた。宿の窓から夕焼けが美しく見えたので、明日は晴れるだろう。

費用：7750円（内宿6800円）　累計156203円　・　歩行距離：46.3㎞　累計487.7㎞

2006年5月２４日　晴れ（１５日目）

朝7時出発、今日は打つべき寺はなし。足摺岬目指して国道５６号・県道４２号・国道３２１号をひたすら歩くのみ。昨日の予想通り、気持ちよく晴れ上がった道を、潮風を受けながら気持ちよく進む。途中１００㎞マラソンでも有名な、最後の清流と呼ばれる四万十川を渡る、海まで3㎞程度と殆ど河口に近いにも関わらず、水は美しく四万十大橋から見る清流は、静かで力強く見るものを圧倒する力を感じた。きょうも国道沿いの食堂でゆっくりビールを飲みながら昼食を戴いた。今日の泊まりは下の加江にある「民宿安宿」。気持ちの良い海沿いの道が多かったせいもあり、１５時には宿に入ることが出来た。

宿は古いが、昔からの遍路宿らしく、色々な遍路情報も交わされている。ちょっと頑固そうな親父さんの人柄が評判を呼んでいるそうである。近所の子供たちが宿の裏手の川で、小魚を捕っているらしい声が聞こえてきた。久しぶりに元気な子供の声を聞いた気がする。町中ではあまり聞けない張りのある楽しげな声であった。

費用：8370円（内宿6600円）　累計164573円　・　歩行距離：44.2㎞　累計531.9㎞

2006年5月２５日　晴れ（１６日目）

朝7時出発、今日は足摺岬にある３８番**金剛福寺**を打って、もう一度戻り次の札所へ向かう、いわゆる打戻のコースである。快晴の空のもと左側に美しい海を見ながら、一路足摺岬を目指す。気持ちよく金剛福寺を打ち終え、門前の食堂で昼食を済ませ、意気揚々と同じ道を戻っていった。途中「民宿安宿」で同宿となった方たちとも出会い、気分良く歩いているはずであった。ところが、ふと気がつくと右側に見えるはずの海が左側にあるではないか、どこかで足摺岬の半島部分を反対側へ越えてしまったらしい。約4㎞以上のロス、山越えを含むため1時間以上多く歩いた事になる。手当たり次第に道を尋ね、何とか元の見覚えのある道へ戻った時には本当にホッとした。今度はしっかりと地図で確認しながら今日の宿「民宿久百々」に向かう。

宿泊者は私ともう一人若い人の２人のみ、女将さんが話し好きで色々な遍路情報を頂く。部屋も食事も申し分なし。その上翌日のお弁当におにぎりまで用意して戴いた。なおこの宿は、昨夜の「安宿」のごく近くである。

費用：8420 円（内宿 6500 円）　累計 172993 円　・　歩行距離：48.0 ㎞　累計 579.9 ㎞

2006 年 5 月２６日　雨（１７日目）

朝７時出発、雨、今日は高知県最後の札所３９**番延光寺**までである。一旦２日前に宿泊した「安宿」近くの下の加江まで戻り、下の加江川沿いを登る遍路道を選んだ。ルートは３種類ほどあるようだが、雨という条件を考えて山越えルートは避けることとした。川沿いの県道２１号は車も少なく、のんびりと歩くことが出来るはずであったが、雨・風共に強くなり、ポンチョの裾をしっかりと押さえて、前を向いて進むのみであった。蛇足であるが途中「三原村」という村を通過、三原という地名は結構多いようである。三原村をすぎると、またのんびりとした田舎道が続く。途中食堂・売店のような所も殆どなく、宿で用意して戴いたおにぎりに救われた。延光寺には１４時頃到着、御宝号と般若心経を唱えお参りを済ます。

参拝の手順は、ガイドブックによれば、①山門で一礼　②手と口を清める　③鐘をつく（可能な場合）　④本堂で納め札を納める　⑤灯明・線香をあげる　⑥お賽銭を上げる　⑦お経をあげる　⑧大師堂へ行き④～⑦を繰り返す　⑨納経をする　となっている。先にも述べたが今回は⑤を省略させて戴いた。服装や作法は決まりではなく、気持ちを形で表すものだそうである。

今日の宿は、延光寺のそばにある「民宿へんくつ屋」である。宿はすぐに見つけることが出来たが、声をかけても返事がない。早すぎるのかな？と思いながら、軒下でポンチョの雨を払い、たたんでいると宿の主らしいおばあちゃんが入ってきた。

宿は古くて歴史があるようで、名前のとおり若干癖のある年老いたご夫婦で運営されていた。どうも跡継ぎがいないようで、ひととおり愚痴を聞かされることになった。

費用：6120 円（内宿 6000 円）　累計 179113 円　・　歩行距離：36.8 ㎞　累計 616.7 ㎞

2006 年 5 月２７日　雨のち曇り（１８日目）

朝６時３０分出発、今日も昼食用のおにぎりを用意して戴いた。約８㎞ほどで宿毛市を通過、旧道（遍路道）に入る。道は整備されているが結構きつい場所もある。相変わらず降り続ける雨に、足を滑らせないよう注意しながら進み、やっとの事で松尾峠の松尾大師跡にたどり着く。ここが県境で長い高知県「修行の道場」は終わり、ようやく愛媛県「菩提の道場」に入る。

私は何を「修行」したのであろうか、確かに高知県１１日の内、雨の日が６日あり、その雨もかなり激しいものに感じた。雨の中を１０kg弱の荷物を背負って２００㎞以上の距離を歩いたことになり。修行したと言えないこともない。ただ自分の中では、後半雨を楽しむようなところもあったように思え、とても修行した感覚はない。気持ちの持ちようで、苦しい場面でも、今自分は楽しいことをしているのだと、思えれば楽しくなる。そんな思いがした。

４０番**観自在寺**は、昼過ぎに打つことができた。ここから宿までは国道５６号を進むことになるが、徐々に雨も小降りになり、泥水シャワーの洗礼をうけることも少なくなった。今日の宿は海のそばにある「民宿旭屋」である。道が平坦なこともあり、思いの外早く宿にはいることが出来た。

国道をゆっくり歩いていると、車の種類の変化に気がついた。大型トラックは別にして、高知県では軽四輪車の４WD（パジェロミニ・プレオ等）がやたら目立ったが、愛媛県では普通車が多くなり、外車の姿もチラホラ見かける様になった。県民性か？道路事情の差か？

宿はきれいな印象で、洗濯を早々に済ませ、ゆっくり風呂に浸かり、明日の柏坂越えに備える。

費用：9200 円（内宿 7980 円）　累計 188313 円　・　歩行距離：40.2 ㎞　累計 656.9 ㎞

2006 年 5 月２８日　晴れ（１９日目）

朝７時出発、宿からいきなり約 500m の峠（柏坂）越えである。天気は快晴、一気に汗が噴き出してくる。遍路道は相対的に通る人が少なく、滑り止め？の丸太や石には大抵苔が生えており、うっかり体重をかけると、見事に転倒する。急坂が多いため、場所によっては大けがにつながる危険もあり、自力で動けなくなった場合を考えると、慎重にならざるを得ない。今回「金剛杖」は持参していないが、折りたたみの出来る「杖」はリュックに入れて来たため、特に下りで

はお世話になった。大汗をかいて上り詰めた柏坂からの南宇和の海は、入り組んだ地形が美しく、疲れを癒してくれる。柏坂から一気に宇和島市に下り、しばらく国道５６号を進む。途中、お接待でミカンを戴き、乾いたのどを潤しながら宇和島市内を抜け、JR 予讃線に沿って一路４１番**龍光寺**へ、途中工場から出てきた職人さんらしき方が、追いかけてきてお接待ですとジュースをさしだされた。４１番は１６時には打ち終えて、３㎞先の４２番**佛木寺**へ急ぐ。どの寺でも納経は１７時までと決められているためだ。何とか４２番を打ち終え、寺からすぐの場所にある「民宿とうべや」に転がり込む。

宿泊者は私一人、部屋もきれいで優しいご主人と、遍路情報など話しながら美味しく夕飯を戴いた。ご主人のお話では、夕刻になると野生のタヌキが現れるとのこと、鍋に入れた残飯を目当てに、親子らしいタヌキが３匹現れ、近所に住み着いているらしい野良猫と仲良く食べ始めた。

費用：9960 円（内宿 7980 円）　累計 198273 円　・　歩行距離：43.0 ㎞　累計 699.9 ㎞

2006 年 5 月２９日　晴れ（２０日目）

朝７時出発、宿からすぐに 480m の歯長峠越えの遍路道、20 日も歩き続けていると、朝１番峠で汗びっしょりになっても、特につらいとか苦しいという思いは持続せず、すぐに気持ちを切り替えて、下りで元気を取り戻せるようになってきた。４３番**明石寺**までは１０㎞強、すぐに打ち終えることが出来た。後は国道５６号を延々と歩くのみ。４４番札所までは７０㎞以上の距離があり、途中で１泊する必要がある。途中鳥坂トンネルを出たところで、変な？行者に呼び止められる。神道？の行者と名乗るその人は、軽四輪に炊事道具まで積み込んで 88 カ所を回っているとのこと。コーヒーをごちそうになったが、結界？だの封じ込めた魔物が 1000 年の時を経て現れるだの、訳のわからない話が延々と続くため、頃合いを見計らって早々に遍路道に逃げ込んだ。

大州市市内で番外霊場「十夜ヵ橋」にお参りする。その昔空海がこの村にさしかかり宿を所望したが、泊めてもらえず、やむなくこの橋の下で野宿したが、寒くて、腹ぺこで、しかも橋を通る人の杖の音がうるさくて眠れず、１夜がまるで１０夜に思えるほど長く感じたとのことからこの名があるとか。今もお遍路さんのエチケットとして、橋の上では杖を突かないのが常識とか。今日の泊まりは内子町の「新町荘本店」。

宿は旅館を名乗っているが、客あしらいは民宿と全く同じ、また明朝の食事は用意できないとのこと。それならば早立ちをさせて頂くために、精算を済ませておく。

費用：9330 円（内宿 7980 円）　累計 207603 円　・　歩行距離：43.3 ㎞　累計 743.2 ㎞

2006 年 5 月３０日　晴れ（２１日目）

朝５時３０分出発、宿を出てすぐ近くのコンビニで、朝食代わりのおにぎりを調達する。コンビニを出てハッと気がついた、宿に菅笠を忘れてきた。大急ぎで戻るが、せっかくの早立ちの意味がなくなった。その後、内子の町外れで魚屋さん？のご主人らしき人が、お遍路さーんと呼んで手招きしている。早朝であり他に人影はない。そばへ駆け寄ると、道が違うとのこと。遍路地図を示すと、地図がおかしくて皆さん迷われるとのこと。地図にはないがこの道をまっすぐ行けば、私が進もうとしている国道３７９号に出ると教えて頂く。半信半疑のまま言われた通りに進むと約３０分程度で、地図を確認出来る場所に出ることができた。少しでも疑いの気持ちを持ったことが恥ずかしい。おかげで、朝の菅笠忘れによる時間ロスは、取り戻せた様に思う。今日はついているかも。

国道３７９号から標高 560m にある４４番**大宝寺**に向かう。途中二つの峠を越え何とか大宝寺を打ち終えたのが１５時過ぎ、今日の予定は次の４５番札所を打ち大宝寺近くの宿に戻る打戻コースである。宿に納経に必要なもの以外を預け、急いで約９㎞強先の４５番**岩屋寺**へ向かう。途中距離の短い遍路道に入るが、これが急坂で県道を通るのが正解だったかも。岩屋寺は岩場に囲まれた独特の雰囲気をもつお寺、何とか納経時間には間に合った。打戻は県道を、下りでもあり、荷物も 2kg 弱と軽いため、小走りで今日の宿「でんこ」に駆け込んだ。今日の１日の移動距離は、この旅での最長不倒距離となるかも。

宿はレストランも経営されており、部屋もきれいで食事もおいしかった。

費用：9960 円（内宿 7800 円）　累計 217563 円　・　歩行距離：**52.3** ㎞　累計 795.5 ㎞

2006年5月３１日　晴れ（２２日目）

朝７時出発、今日は標高710mの三坂峠さえ越えれば、下り坂及び平野部が多く楽が出来そうである。今夜日本最古の温泉と言われる道後温泉に入るのを楽しみに先を急ぐ。４６番**浄瑠璃寺**・４７番**八坂寺**・４８番**西林寺**・４９番**浄土寺**・５０番**繁多寺**・５１番**石手寺**と順調に打ち進む。このあたりは寺と寺の距離が狭く、比較的町中を進むため、余り変化がない。道後温泉では、道後本館から１０分程度の場所にある「浪速屋旅館」に泊まる。あいにくと洗濯設備がないとのことなので、楽しみにしていた温泉を存分に楽しんだ後、散歩を兼ねてコインランドリーまで足を運ぶ。走ろう会の研修会でも来た道後本館も再度見学し、足湯にも立ち寄りゆっくり出来た。

宿は温泉は◎、それ以外は可もなし、不可もなし。但し朝食が７時からとのことで、出発が遅れそうである。

費用：14185円（内宿8345円）　累計231748円　・　歩行距離：39.2㎞　累計834.7㎞

2006年6月1日　晴れ（２３日目）

予定より早く食事を用意してくださり、朝７時出発、今日も松山市から今治市の市街地歩行が主体となる。山中に比べて道に迷いやすい上、面白みも少ない。これも修行の一つか。５２番**大山寺**は平野部にポコンと盛り上がった丘の上にあり、コンクリート舗装はされているが、山門から本堂まで結構きつい登りが続いていた。途中の林で、すぐ目の前にフクロウが止まっているのに出会った。少し戻って５３番**円明寺**を打ち、海岸線に出る。しばらくは静かな海を左手に見ながら、のんびりと進む。しかし梅雨の晴れ間というのか非常に暑い、国道&県道沿いの歩行は日陰も少なく、面白みも少ない。郊外に出て見つけたうどん屋さんに入り、ビールとうどんを注文する。しばらく体を冷やしてから、再び炎天下に出る。今日は次の札所の手前の「ますや旅館」に予約してある。昼をゆっくり採ったせいもあり少し遅れ気味となったが、１６時３０分には宿に入ることが出来た。

宿はごく普通の民宿で、工事関係の作業員らしき方たちと同宿となった。工事の方たちが戻る前にと、少し焦って洗濯をしたせいか、財布も一緒に洗濯してしまった。

費用：9200円（内宿6405円）　累計240748円　・　歩行距離：43.2㎞　累計877.9㎞

2006年6月2日　晴れ（２４日目）

朝７時出発、今日も晴れて暑くなりそう。相変わらず平野部をただ黙々と歩く。前日までと違うのは、海から離れ若干山の方へ向かっていること。５４番**延命寺**・５５番**南光寺**・５６番**泰山寺**・５７番**栄福寺**・５８番**仙遊寺**はいずれも２～3㎞おきに点在しており、次の５９番**国分寺**も約7㎞（1時間強）で到着する。打つお寺の数が増えれば、参拝に時間をとられ、歩ける距離が短くなる。今までの実績は寺１つあたり２０分～３０分はかかる。ましてや、バスで回って居られる団体の遍路さんの後になると納経を含めて３０分位のロスタイムはすぐに出てしまう。そんなときは、ゆっくり休めとのお大師様の心遣いと考え、ボーとして待っていることにしている。５９番から約１６㎞程度進んだ位置にある「栄屋旅館」が今夜の宿、暑さに負けないようにと、少し水分を取りすぎたようで、おなかの調子が少しおかしい。愛媛（伊予の国）はお接待の風習があついのが有名とか、今日も２回（ポカリスエットとオロナミン）お接待して頂いた。

宿は古い建物であるが、親切にして頂いた。かねてから気になっていた、靴のかかとが限界になったため、女将さんに靴屋さんの所在を尋ねたら、自転車を貸して頂き、親切な靴屋さんを紹介してくれた。なお、靴は道中知り合った方々はトレッキングシューズを履いている方が多かったが、行程の８割程度は舗装路であり、私はジョギングシューズを使用して正解であったと思う。

費用：15720円（内宿6500円）　累計256668円　・　歩行距離：38.6㎞　累計916.5㎞

2006年6月3日　晴れ（２５日目）

朝７時出発、今日は遍路ころがしで有名な６０番**横峰寺**にアタックする。途中平成１６年の台風で路面が消失した部分があると聞き、迂回を覚悟していたが、宿のご主人からの情報では、何とか通れるとのこと。ダメもとで挑戦することにする。案の定遍路道には倒木がそのままになっている場所もあったが、なんとか通行可能なように手が入れられていた。ただし雨が降っていれば通行不能になるのは間違いなさそうだ。横峰寺を打った後の下りも結構きつく、杖なしでは

危険を感じるほどであった。６１番**香園寺**・６２番**宝寿寺**・６３番**吉祥寺**・６４番**前神寺**はすぐ近くにあり順調に打ち進む。６５番までは４５㎞もあるため、６４番から3㎞先の「西条グランドホテル」にチェックインする。
　宿は名前負けしているようなビジネスホテルで、管理者？のお姉さんの愛犬に嫌われたようで、吠えまくられる。但し、料金は格安であった。
　　費用：9510 円（内宿 3500 円）　累計 266178 円　・　歩行距離：33.8 ㎞　累計 950.3 ㎞

2006 年6月4日　晴れ（２６日目）
　朝5時３０分出発、今日は６５番**三角寺**までは無理と考え、６㎞ほど手前のビジネスホテルを予約した。暑い中、国道１１号または旧道を延々と歩くのみ、旧道に入ると車の数が少なくホットするが、日差しが強く今日も暑い。ただ、早朝出発の効果があり、意外なほど順調に距離を稼いでいる。昼食を採った時点で計画を見直し、ビジネスホテルをキャンセルし、三角寺から３㎞ほど先の「民宿一野屋」に予約を入れる。三角寺への登り約４㎞は、急な坂道が続き結構きついコースであった。その分下りは楽であったが、宿を探すのに結構手間取った、しかしラッキーなことに、宿の女将さんが、表に出ておられてうろうろしている私を見つけ、呼んで頂けた。今日で愛媛県（伊予の国）は、打ち終わりである。あと 200 ㎞程度と思うと、ホットしたような残念なような複雑な気持ちになる。
　宿は部屋もこざっぱりしていて、食事も美味しいものを出して頂き、ゆっくりさせて頂いた。川沿いの部屋のため、水の音が最初は気になったが、そのうち忘れたように眠ってしまっていた。
　　費用：8545 円（内宿 5800 円）　累計 274723 円　・　歩行距離：44.4 ㎞　累計 994.7 ㎞

2006 年6月5日　晴れ（２７日目）
　朝７時出発、今日から香川県（讃岐の国）涅槃の道場である。最初の寺６６番**雲辺寺**は標高 911m の雲辺寺山山頂にあり、８８カ所の中でもっとも高いところにある、まさに雲の辺りにある寺である。佐野からの登りは最大の遍路ころがしと呼ばれる急坂が続く。その分上り詰めた時の、空と下界の美しさは格別である。前日・前々日の、横峰寺・三角寺・雲辺寺と石鎚山系をたどったが、高知の海とは対照的に山の楽しさも味あわせて頂いた。雲辺寺を過ぎてすぐ、たくさんの羅漢様に出会ったが、ガイドや地図にも説明はなく、不思議な感じがした。次の６７番**太興寺**へは約１０㎞、下り坂を楽しみながら進むことが出来た。６８番**神恵院**・６９番**観音寺**は同じ敷地内にあり納経所も共通であった。今日の泊まりは６９番近くの「若松屋別館」である。古い旅館らしいが、遍路宿の常で、顔を見せる宿の人は１人だけ、少し寂しい気がする。

　　費用：10990 円（内宿 6500 円）　累計 285713 円　・　歩行距離：35.9 ㎞　累計 1030.6 ㎞

2006 年6月6日　晴れ（２８日目）
　朝７時出発、朝の内は財田川沿いに進み比較的涼しく７０番**本山寺**を打つことが出来た。だが７１番**弥谷寺**への道は、１２㎞ばかり、日陰のほとんどない国道１１号線または田舎道である。歩くことには慣れ、苦にならなくなっているが、暑さには参ってしまう。この季節の遍路にとって最適な天気は「曇り空」である。水分補給を十分にしながら、７２番**曼荼羅寺**・７３番**出釈迦寺**・７４番**甲山寺**を打ち、７５番**善通寺**に着いたのはお昼過ぎ、ありがたいことに、善通寺ではお参りに来た全てのお遍路さんに、うどんのお接待をされていた。ちょうどお腹も減っていたこともあり、ありがたくまた美味しくちょうだいさせて頂いた。このあたりは殆ど町中を通るため、あまり変化もなく坦々と歩くのみである。大阪とは異なり車の量も少なく、排気ガスに悩まされる程でもない。７６番**金倉寺**・７７番**道隆寺**・７８番**郷照寺**を打ち、１６時前にすぐ近くの「さぬき旅館」に入る。

　宿はごく普通の民宿という感じ。暑さに負けそうになっていたので、部屋でゆっくりとさせて頂いた。
　　費用：13420 円（内宿 6500 円）　累計 299133 円　・　歩行距離：42.6 ㎞　累計 1073.2 ㎞

2006 年6月7日　晴れ（２９日目）
　朝７時出発、宿でおにぎりを用意して頂いた。７９番**高照院**へは町中をとぼとぼと歩くのみ。８０番**国分寺**まであまり変化の少ない道が続く。８０番を過ぎて山道に入るとなぜかホッとする。８０番から８１番**白峰寺**を打ち８２番**根香寺**への道は遍路ころがし

とされているが、久しぶりの山道はむしろ楽しい。８３番**一宮寺**は高松市内にある。今日は高松市の外れにある「ひろせ旅館」泊まりである。途中若干道に迷ったが、１９時には到着することができた。今回の旅で最も遅い到着である。

宿は、可もなし不可もなし、朝食なしだがおにぎりを用意して頂けるとのことで、お願いした。同時に早立ち出来る様に、精算を済ませておいた。

費用：10292 円（内宿 6500 円）　累計 309425 円　・　歩行距離：40.7 ㎞　累計 1113.9 ㎞

2006 年６月８日　雨時々曇り（３０日目）

朝５時３０分出発、出来れば今日中に８８番まで打ちたい。８４番**屋島寺**へは舗装されているが、旅館から約 2.5 ㎞の急坂を登る。地元の方々が朝の散歩代わりに登っておられるのに同行させて頂いた。皆さん健脚で驚かされた。但し、あまりに早くつきすぎてお参りを済ませても、納経を受け付けて頂く時間（全寺７時から）になっていない。仕方なく納経所の前で、７時までおにぎりを頬張りながら待つことにする。打ち終わった頃から雨がちらつきだした。８５番**八栗寺**・８６番**志度寺**・８７番**長尾寺**は、殆ど県道・国道を歩くのみ、８７番を過ぎると最後の峠越えがある。木道・岩場を息を切らして上り詰めると最後の８８番**大窪寺**が現れる。途中女体山の山中で迷うが、何とか林道に出て事なきを得る。雨中歩行になったことも考慮して、林道を進むことにする。台風の爪痕か倒木、小さななだれの後があちこちにあり、不安が募る。大窪寺の山門についたときには、本当にホッとした。小雨に煙る大窪寺は「結願」の寺にふさわしく圧倒されるような威厳さえ感じた。

宿は寺の直ぐ前にある「八十窪」、部屋は清潔で食事も最高、結願のお祝いとして赤飯まで用意して頂き、最後の宿にふさわしいもてなしをして頂いた。門前のおみやげ屋さんで少しのおみやげを購入し、荷物のうち使用しないものをまとめて、宅配便で送って頂く。

費用：13420 円（内宿 7000 円）　累計 322845 円　・　歩行距離：41.4 ㎞　累計 1155.3 ㎞

2006 年６月９日　晴れ（帰阪）

朝１０時３０分の志度行きバスにのり、高速バスに乗り継ぎ帰阪する。途中歩いてきた道をバスで通過すると、あっという間に通りすぎる。人の力の小ささを痛感した。

費用：5170 円　累計 328015 円

おわりに

家族や周りの方々に、自分のわがままで、３０日に及ぶ歩く旅を経験させて頂けたことに感謝しています。さらには、旅の途中でお会いした方々のご親切に感謝しています。この世知辛い世の中で、人の優しさ暖かさを感じさせて頂けるという貴重な経験をさせて頂きました。あえて言うなら、人は一人では生きて行けない、周りの全ての人、もの、事象と関わり合いながら、助け合って生きてゆくものかも知れません。

行程が半分を過ぎる頃から、特に何を考えるでもなく、ただ次の札所に向かって歩いているだけの時間が多くなっているように感じた。遍路の旅は札所のスタンプを集めるのが目的ではなく、札所間を歩き続けることに意義があると聞かされました。私の場合は、いやなこと、苦しいことは殆どなく、楽しいことの連続でした。遍路ころがしを、きつい・厳しい修行だと考えれば、苦しくもなるが、トレーニングの一環と考え、これで膝周りの筋肉が鍛えられて、膝痛も軽減出来るかもと考えれば、楽しくなってくる。事実、体重が約６kg低下したこともあるが、膝痛は殆どなくなり、筋肉痛も歩き始めて１週間程度過ぎた頃から自然に解消された。

終わってみれば、ただの遊びに過ぎなかったと言われそうですが、私なりに今回の経験を生かして、次の目標を探し、計画し、可能な限り死ぬまでチャレンジを続けたいと思う。